

(別記)

日進市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、耕地の約7割が水田で農業の主力は稲作である。しかし、名古屋市の東部に隣接しているという地理的条件もあり、第二種兼業農家がほとんどであり、1戸あたりの耕地面積も狭小で、高齢化や後継者不足から遊休農地が増えている。

こうした中、水稻作付面積の維持と、転作による水田面積の維持を図っていく必要がある

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

低農薬の米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。

(2) 非主食用米（飼料用米）

主に主食用品種での対応とするが、新たな販路の開拓などによる需要の掘り起こしを行い、30年度には16haの生産を目指す。

(3) 野菜、果樹、花き、景観形成作物

地域振興作物として作付を推進し、30年度には33.8haの生産を目指す。

(4) 大豆

農機等の導入などにより、現行の面積を維持していくこととする。

(5) 不作付地の解消

農地バンク制度を活用し担い手への集積を図っていく

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 平成25年度の作付面積 (ha) | 平成28年度の作付予定面積 (ha) | 平成30年度の目標作付面積 (ha) |
|-----------|---------------------|-----------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 234 | 233 | 233 |
| 飼料用米 | 0 | 15 | 16 |
| 米粉用米 | 0 | 0 | 0 |
| WCS用稲 | 0 | 0 | 0 |
| 加工用米 | 0 | 0 | 0 |
| 備蓄米 | 0 | 0 | 0 |
| 麦 | 0 | 0 | 0 |
| 大豆 | 2 | 2 | 2 |
| 飼料作物 | 0 | 0 | 0 |
| そば | 0 | 0 | 0 |
| なたね | 0.2 | 0 | 0 |
| その他地域振興作物 | 33.3 | 33.3 | 33.8 |
| 野菜 | 29 | 29 | 29.5 |
| 花き・花木 | 2 | 2 | 2 |
| 果樹 | 1.5 | 1.5 | 1.5 |
| 景観形成 | 0.8 | 0.8 | 0.8 |

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

| 取組 番号 | 対象作物 | 取組 | 分類 ※ | 指標 | 平成 25 年度 (現状値) | 平成 28 年度 (目標値) | 28 年度の 支援の有無 |
|----------|------|----|---------|----|-------------------|-------------------|-----------------|
| | | | | | () | () | |
| | | | | | () | () | |
| | | | | | () | () | |
| | | | | | () | () | |

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28 年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり